

座長コメント

- 有識者会議では、現在、「トンネル掘削に伴う大井川中下流域の地下水への影響」と「トンネル湧水の大井川への全量戻し方」についての検討を行っている。

これらの検討にあたっては、従来の水収支解析モデルによる解析結果の検証に加え、大井川に関する実測データに基づいた科学的・工学的見地から議論を進めているところである。

- 本日の第5回有識者会議では、前回会議までの指摘を踏まえ、以下のとおり議論を行った。

【トンネル掘削による大井川中下流域の地下水への影響】

- ・ 主にトンネル施設の規模等を定める目的で作成された水収支解析モデルにおいて、解析の過程で算出される地下水水位の変化を検証した結果、トンネル掘削による地下水への影響範囲はトンネル掘削が行われる上流域に留まっているとの計算結果がJR東海から示された。
- ・ また、大井川下流域（扇状地）の地下水水位と降水量や河川流量との関係を実測データに基づき調べた結果、扇状地内の上流域では、降水量や河川流量の影響が見受けられるが、扇状地内全体としては安定した状態が続いていることが確認された。さらに、中下流域の河川流量は上流域のダムにより利水の安定供給のためにコントロールされていることも示された。

- ・ これらのことから、トンネル湧水が大井川に適切に戻されている範囲においては、今回示された実測データと水収支解析モデルをつなぐ考え方が示される必要があるが、トンネル掘削による中下流域の地下水への影響は概括的には問題ないと言えるのではないかと複数の意見があった。これをさらに確かにするため、今後、化学的なデータや静岡市による解析結果等を用いて、追加の検討を行うよう有識者会議からJR東海に対して指示があった。

【トンネル湧水の全量の大井川表流水への戻し方】

- ・ JR東海からは導水路トンネル及びポンプアップによってトンネル湧水の全量を大井川に戻す方法が示されている。
- ・ 今回会議では、工事期間中に山梨県側にトンネル湧水が流出することに関し、トンネルの掘削方法について議論を行い、JR東海から示された工法については現実的であろうという意見もあったが、工事期間中に山梨県側に一定量のトンネル湧水が流出することから、中下流への影響等について、JR東海が更なる検討を進めるよう要請した。
- ・ 本件に関しては流出する湧水量の定量的な評価や施工管理等、次回も引き続き議論することとなった。